

第 10 回中部 MIST 研究会開催のご報告

当番幹事 岐阜市民病院 整形外科
宮本敬

日本 MIST 研究会 会員の皆様

2018年9月8日(土)に岐阜市産業交流センターじゅうろくプラザにて第10回中部MIST研究会を開催させていただきました。各地で整形外科・脊椎関連行事がある中、総会に50名、ハンズオンセミナーに25名の方々のご参加を頂き、盛会のもとに無事終了いたしました(写真1 総会全体写真)。開催より3週間近く経過しておりますが、ここに報告させていただきます。



写真1 参加者一同 (江幡先生はお帰りの新幹線の時間のため入っていません、また、成田先生に前の列に座っていただくべきところ、スタッフ一同、気づきませんでした、無礼をお許してください!!!)

もともと、このような研究会開催の段取りに不慣れな私に、本研究会の発起人である佐藤公治先生(名古屋第二赤十字病院)、蜂谷裕道先生(はちや整形外科病院)から、「好きなように、自由にやっていいよ!」というアドバイスをいただき、全くプレッシャーを感じることなく準備をすすめることができました。また、はちや整形外科病院事務部秘書広報課の加集紀子様、松下浩子様の卓越したサポートをいただき、また、多くの企業の方々にも多大なるご協賛をいただきました。心より感謝を申し上げます。

まずは9月7日(金)に恒例の懇親会・本音会が行われました。もともと、長良川の鶉飼い鑑賞が予定されていましたが、前夜より降っていた雨の影響で長良川が増水しており、鶉飼いが中止となるという事態でした。長良川河畔のホテルパークに、総会でのご講演をお願いした江幡先生、

成田先生,そして九州 MIST から嬉しい乱入をいただいた森本先生(佐賀大学)を含む 25 人が参加し,泥色の長良川温泉を楽しんでいただいた後,鶉飼い中止の残念感を吹き飛ばすほどに大いに盛り上がった総会前夜となりました(写真2 懇親会).



また,岐阜大学・関連病院の脊椎班メンバーにも大いに会を盛り上げていただきました.ご参加いただいた先生方,そして,貴重な症例をご提供いただきました先生方には心より感謝いたします.

やはり,臨床で多忙のなか,なんとか時間を工面して温泉に集まったからこそシェアできる時間・語らい・雰囲気は貴重なものである,と再確認ができました.中部地区は北陸・東海と広いエリアになりますが,わざわざ岐阜までお越しいただいた皆様への感謝をこめて,当番幹事の私より『脊椎手術,ここだけの話 -教訓的トラブル症例の数々-』(写真3)と銘打って,濃い話題を提供させていただきました.会場内で“えっ?!”、“マジで!?!”といった声も聞かれ,教訓的経験のシェアができました.また,

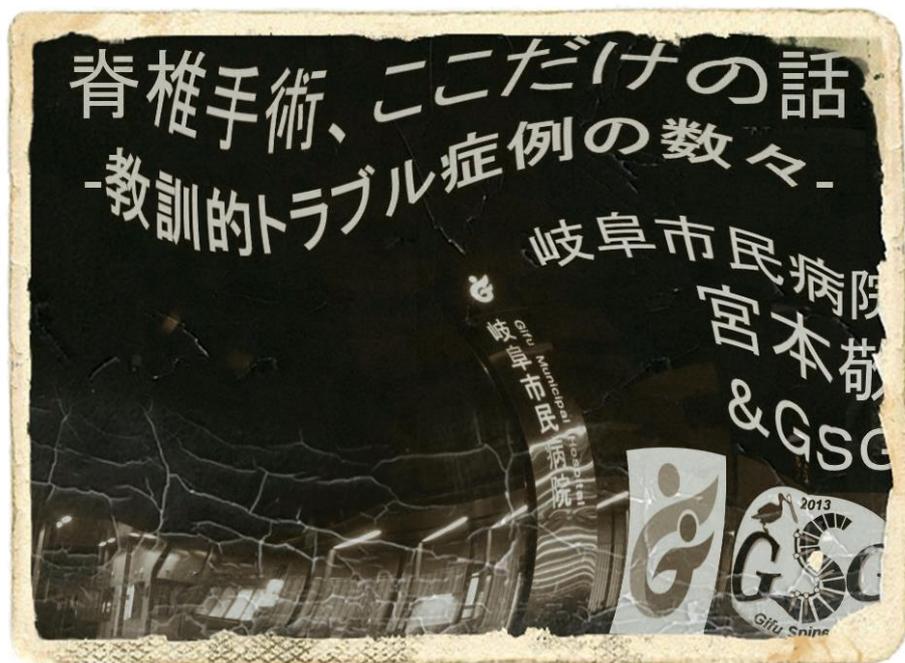


写真3 当番幹事による ここだけの話

未然に防ぐノウハウの伝達もできたものと感じております.

翌日,9月8日(土)に本会が午前9時30分より岐阜市産業交流センターじゅうろくプラザにて行われました.16題の一般演題のご発表をいただきました.演題数が多いため,時間の制約がありました,座長をお願いした岐阜大学関連の先生方と蜂谷裕道先生の巧みな采配にて,活発なディスカッションが行われ,かつ,時間超過することはありませんでした.ありがとうございました.

ミニレクチャーを、『MIStにおけるCAOSの試みースマートフォンからVR/MRへー』というタイトルで、亀山市立病院の成田渉先生より賜りました(写真4)。創意工夫を重ねられ、IT関連の知識を駆使し、その発展を貪欲に追い求めておられる情熱に感服いたしました。



写真4 成田先生

特別講演を、『安全なLIFのための必修解剖』というタイトルで、山梨大学医学部の江幡重人先生より賜りました(写真5)。解剖を熟知され、それを明快にまとめていただき、かつ、多くの臨床経験をお持ちであることが伝わる、素晴らしい講義でした。ご多忙のなか、講演を引き受けていただいた両先生には厚く御礼申し上げます。



写真5 江幡先生

一般演題はどれも充実した内容であり、最優秀演題賞の選考は非常に僅差でした。今回は、富山県立中央病院整形外科の笹川武史先生(演題『びまんせい増殖性骨増殖症を伴う脊椎骨折に対してPPS固定を適応できなかった症例の検討』)が選ばれました(写真6)。豊富なご経験からMISt手技適応の限界を提唱された素晴らしい演題でした。おめでとうございます。



写真6 笹川先生

同日午後には、ナース・コメディカルのためのハンズオンセミナーも非常に盛況でした。佐賀大学の森本忠嗣先生にもファカルティとしてご参加をいただきました。ファカルティは本研究会で作成されたハッピを着て、気分的にも盛り上がりました(写真7 森本先生)。



写真7 佐賀大学 森本先生



写真8 岐阜市民病院 近藤先生

レクチャーは伏見一成先生(岐阜大学)、近藤祐一先生(岐阜市民病院)(写真8)と、ご当地の若手に頑張ってもらいました。参加者には、PPS, TLIF, MIS-TLIF, LIF(OLIF, XLIF)の手技を体験・実習して頂きました(写真9)。主にナースからのアンケート結果では、“実際に器械に触れて、手術しながらの手技を勉強できた”、“実際に模型でやることで注意するポイントがわかった”、“普段、理解が薄いところまで詳細に聞くことができよかった”、“業者さんも、ファカルティの先生方もわかりやすく指導してくださった、脊椎大好きです”など、非常にポジティブな声の数々を聞くことができました。また、今回、関東地区より、放射線技師さんのグループでのご参加があり、“術者がどのような場面でイメージを必要とし、どこに注意を払いながら手術を進めているかを理解した”とのご感想をいただきました。様々なプロフェッショナルが集い、ファカルティとブースを提供していただきました各会社の皆様とともに大いに盛り上がり、幕を閉じました(写真10)。

第10回となる本研究会を盛会に終えることができましたのも、ご参加・ご発表・ご協力いただきま

した多くの先生方やご協賛をいただきました企業の皆様のお力添えの賜物と、心よりお礼申し上げます。また、はちや整形外科病院の加集紀子様、松下浩子様のご協力はもう、本会には欠かせないものとなっております。まことにありがとうございました。私の脊椎外科の恩師であります清水克時先生、細江英夫先生にも参加いただき、主に若い世代が熱く追究している MIST について、世代を超えたご理解をいただき、“非常に盛り上がった研究会であった・楽しむことができた”，と非常に喜んでおられました。



次回、第11回中部 MIST 研究会は、平成31年2月15～16日に行われる第10回日本 MIST 研究会(15日:症例検討会, 16日:本会とハンズオンセミナー)との合同開催として蜂谷裕道会長のもと、開催される予定です。全国の先生方のご参加をいただき、中部 MIST 研究会としても盛り上がる事ができれば、と祈念しております。